

(款) 20衛生費 (項) 5保健衛生費 (目) 5保健衛生総務費

◎保健衛生一般の経費

保健衛生運営事業	【	市民健康課	】
----------	---	-------	---

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 市民一人ひとりの保健衛生知識の啓発を図るとともに、補助団体等の活動促進を促すため。

効果 市民の健康衛生水準の向上を図る。

【事業の内容】

(1) 保健衛生運営事業

- ・市民への健康啓発等を行っている団体の運営を推進するために補助金を交付した。
- ・市内で分娩できる施設を開設・運営するために事業費等を支援した。

(2) 献血事業

- ・日本赤十字血液センターが街頭等で実施する献血事業に対して、市内事業所、町内会、ライオンズクラブ等と連携して実施した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

産院開設への支援(4-1-2-⑱)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
316,981	316,981	283,098		33,883

主な支出内訳

・保健衛生運営事業

産院開設準備委員会謝礼	0
救急医療・健診等保険料	644
地域医療センター維持管理費負担金	2,653
県ドクターヘリ運営事業運営費負担金	422
医師会運営費補助金	3,928
歯科医師会運営費補助金	2,130
衛生協議会運営費補助金	3,880
薬剤師会運営費補助金	123
助産師会等運営費補助金	243
産科診療所開設支援事業補助金	268,474

・献血事業

献血協力者謝礼	377
---------	-----

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-34 保健衛生運営事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	89 保健衛生運営事業					
		782 保健衛生運営事業					
		92 献血事業					
主管課	市民健康課		関連課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	地域の関係団体との協議により市民の健康衛生に対する意識の啓発を促して疾病の予防を図る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	283,098千円	17,217千円	16,688千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	283,098千円	17,217千円	16,688千円			
	人員配置数	0.6人	0.6人	0.6人			
	人件費	5,619千円	5,607千円	5,627千円			
協働の パートナー	献血推進会議 献血協力団体 医師会	献血推進会議 献血協力団体	献血推進会議 献血協力団体				
事務事業 運営経費	総事業費	288,717千円	22,824千円	22,315千円			
	市民1人当 りの経費	1,636円	130円	127円			
	対象者1人 当りの経費	-	-	-			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
産科診療所	268,474	出産のできる診療所の新設			②		
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
献血目標数	×	目標値	1925人	2148人	1933人		
		実績値	1465人	1321人			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
市内で出産できる医療機 関の数	◎	目標値		2	2		
		実績値	1	2			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
産科診療所での出産数		目標値		-	300	360	360
		実績値		-			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名	逗子市	葉山町					
目標値	324人	206人					
実績値	188人	160人					
	58%	77%					
	(献血者数について)						

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 企業等のおかれている経営環境が厳しくなっているため、従業員数の減少などで企業等で働く従業員の献血事業協力が得にくくなっている。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・(献血)血液センターと話し合いの場を持ち、どうしたら献血量を上げられるか検討した。一日にひとつの企業で必要量の確保が難しいときは、日程を調整して午前・午後で二つの企業をまわるようにした。また、鎌倉市で見つからないときは、市町村をまたいで実施してもらうようにした。 ・(産科診療所)鎌倉市医師会との協力のもと、医師会立の産科診療所をH21.2.17から開所し、市内で出産できる医療機関を2カ所とすることができた。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・(献血)献血量の不足の中、200mlは、需要が無いということで本人の実施意思があるにも関わらず、断っている状況である。 献血車1台あたりの必要量の確保が難しい、という理由で献血回数が増えている。 ・(産科診療所)診療所の安定的な運営を図るためには、出産取扱数を増やすことが必要であり、増床や助産院(併設)も検討していかなければならない。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・(献血)血液不足と言われている中、献血を希望される方の善意を無にしないような対応を血液センターに考えてもらうよう働きかける。 1カ所で1台あたりの必要量の確保が難しいときは、1台のバスで午前・午後と別の場所を実施してもらうよう血液センターと協議していく。 ・(産科診療所)診療所の安定した運営のため、市医師会との協議を進める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	・(献血)血液センターとの連携を深め、ネットワークの軽い実施を行なう。 ・(産科診療所)市内で出産したいという市民の要望に応え、産科診療所が開設できたことは評価できる。今後の安定的運営に努力していきたい。		
担当課長氏名:	市民健康課長 相川 誉夫		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	・(献血)協力者へのPRが課題である。 ・(産科診療所)安定的運営に向け、市医師会と協議を進め、増床等について方向性をさぐりたい。		
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子